



## 読書界7月号

### テーマ 「時間がなくても読める本」

#### 『探偵ガリレオ』 東野圭吾 文春文庫

数々の難事件に帝都大学工学部物理学科の若き天才助教授が立ち向かう！

この本は一つの事件が約60～70ページで解決するので、短時間で、ミステリー小説を楽しみたい人にうってつけです。事件のトリックには、科学的なものが使われているので、知識を増やすことができます。また、友人である刑事との掛け合いでは、助教授の言っていることが難しく、頭を抱える刑事に共感したくなる人が多いです。

1年

#### 『営繕かるかや怪異譚』 小野不由美 角川文庫

何度閉めても開いているふすま、雨の袋小路に佇む喪服の女性、押し入れに潜む見知らぬ老人…。「家」にまつわる様々な怪異を、ふらりと現れる営繕屋が軽やかに解決していく話です。映画化された『残穢』でも知られる小野不由美さんのライトなホラー短編集で、時間がなくてもさらっと読めます。勉強の気晴らしや、寝る前の手持無沙汰なときなどにおすすめです。短くても一話一話に奥深さがあり、毎話読むごとに薄ら寒い恐怖感を味わえます。怪談は夏が旬、ともよく聞きますが、夏の暑さを吹き飛ばすのにもってこいの一冊です。

2年

#### 『二分間の冒険』 岡田淳 偕成社文庫

この本は時間がなくても読める。何故って？

題名を見れば分かるだろう、そんなことは！

2年

#### 『キングダム 最強のチームと自分をつくる』 伊藤羊一 かんき出版

本書は、超人気漫画『キングダム』に登場する人物たちの「言葉」をベースに、志、行動、精神力、仲間、話力、信の6つの要素から構成された、「仕事力」の鍛え方を述べたものです。登場人物の「言葉」とそれが発せられたエピソード、さらにそれに関連した筆者の経験も述べられており、最強のチームと自分を作るうえで必要な考え方、行動の仕方を、とても容易に知ることができます。また、4ページごとにこれらがまとめられているため、隙間時間などで読み進めていくことができます。図書館にあります。ぜひ読んでください。

3年

#### 『きのうの影踏み』 辻村深月 角川文庫

大学の講義で民俗学の話になった。「私」は秋田出身でナマハゲについて友人に訊かれ、地元のナマハゲの現状や自身の印象や考えについて話した。冬、興味を持った友人と地元へ帰省して大晦日、ナマハゲを町内会の役員に「手配して」もらった。ナマハゲへどう接すればいいかわからない私は一人二階で紅白歌合戦をみていた。階下では友人と母がナマハゲを見てキャーキャー騒いでいる。ほら、ナマハゲって馬鹿にしているけど怖いでしょ、と思っていたら電話が鳴って——（『私とナマハゲ』）。ほか『十円参り』『手紙の主』など13話を収録。巻末の朝霧カフカの解説も是非読んでほしい。

3年